

磁気リコネクション

2006. 1. 10.

1 はじめに

このモデルパッケージは、2次元平面内での磁気リコネクションを解くためのものである。基本的には、Ugai (1992) の計算に倣っている。

2 仮定と基礎方程式

流体は非粘性・圧縮性・磁気拡散あり磁気流体とする。計算領域は2次元デカルト座標 (xy 平面) で $\partial/\partial z = 0$ 、 $V_z = 0$ 、 $B_z = 0$ と仮定する。解くのは、密度 ρ 、圧力 p 、速度 V_x 、 V_y 、磁場 B_x 、 B_y についての2次元 MHD 方程式

$$\frac{\partial}{\partial t}(\rho) + \frac{\partial}{\partial x}(\rho V_x) + \frac{\partial}{\partial y}(\rho V_y) = 0 \quad (1)$$

$$\frac{\partial}{\partial t}(\rho V_x) + \frac{\partial}{\partial x} \left(\rho V_x^2 + p + \frac{B^2}{8\pi} - \frac{B_x^2}{4\pi} \right) + \frac{\partial}{\partial y} \left(\rho V_x V_y - \frac{B_x B_y}{4\pi} \right) = 0 \quad (2)$$

$$\frac{\partial}{\partial t}(\rho V_y) + \frac{\partial}{\partial x} \left(\rho V_x V_y - \frac{B_x B_y}{4\pi} \right) + \frac{\partial}{\partial y} \left(\rho V_y^2 + p + \frac{B^2}{8\pi} - \frac{B_y^2}{4\pi} \right) = 0 \quad (3)$$

$$\frac{\partial}{\partial t}(B_x) + \frac{\partial}{\partial y}(cE_z) = 0 \quad (4)$$

$$\frac{\partial}{\partial t}(B_y) - \frac{\partial}{\partial x}(cE_z) = 0 \quad (5)$$

$$\begin{aligned} \frac{\partial}{\partial t} \left(\frac{p}{\gamma - 1} + \frac{1}{2} \rho V^2 + \frac{B^2}{8\pi} \right) &+ \frac{\partial}{\partial x} \left(\left(\frac{\gamma}{\gamma - 1} p + \frac{1}{2} \rho V^2 \right) V_x - c \frac{B_y E_z}{4\pi} \right) \\ &+ \frac{\partial}{\partial y} \left(\left(\frac{\gamma}{\gamma - 1} p + \frac{1}{2} \rho V^2 \right) V_y + c \frac{B_x E_z}{4\pi} \right) = 0 \end{aligned} \quad (6)$$

$$cE_z = -V_x B_y + V_y B_x + \eta J_z \quad (7)$$

$$J_z = \frac{\partial B_y}{\partial x} - \frac{\partial B_x}{\partial y} \quad (8)$$

である。ここで、 γ は比熱比、 η は磁気拡散 (後述)。

3 無次元化

計算コードの中では、変数は以下のように無次元化して扱われる (表1参照)。長さ、速度、時間の単位はそれぞれ L_0 、 C_{S0} 、 L_0/C_{S0} 。ここで、 L_0 は初期電流シートの厚み、 C_{S0} は初期状態の音速。密度は初期の遠方 ($x \gg L_0$) での値 ρ_0 で無次元化する。以下、無次元化した変数を使う。

変数	規格化単位
x, y	L_0
V_x, V_y	C_{S0}
t	L_0/C_{S0}
ρ	ρ_0
p	$\rho_0 C_{S0}^2$
B_x, B_y	$\sqrt{8\pi\rho_0 C_{S0}^2}$

表 1: 変数と規格化単位

4 パラメータ・初期条件・計算条件・境界条件

$0 < x < X_{\text{bnd}}, 0 < y < Y_{\text{bnd}}$ の領域を解く。初期状態は以下のようなもの。サブルーチン model で設定する。

$$\begin{aligned}
B_x &= 0 \\
B_y &= \sqrt{\frac{8\pi\alpha_0}{\gamma}} \tanh(2x) \\
p &= \frac{1}{\gamma}(1 + \alpha_0) - \frac{B_y^2}{8\pi} \\
\rho &= \gamma p \\
V_x &= V_y = 0
\end{aligned}$$

で、 α_0 は初期プラズマベータの逆数。

また、磁気拡散は次のような空間分布をもつとする。

$$\eta = \eta_i (2\xi^3 - 3\xi^2 + 1) \quad \text{if } \xi < 1$$

ただし、

$$\xi = \frac{\sqrt{x^2 + y^2}}{r_\eta}$$

で η_i =定数、 r_η =定数はパラメータ。

境界条件は、すべて対称境界条件。 $x = 0$ で、 V_x, B_y は「絶対値が等しく符号反転で鏡面配置」、 ρ, p, V_y, B_x は「絶対値・符号が等しく鏡面配置」。 $x = X_{\text{bnd}}$ で、 V_x, B_x は「絶対値が等しく符号反転で鏡面配置」、 ρ, p, V_y, B_y は「絶対値・符号が等しく鏡面配置」。 $y = 0$ で、 V_y, B_x は「絶対値が等しく符号反転で鏡面配置」、 ρ, p, V_x, B_y は「絶対値・符号が等しく鏡面配置」。 $y = Y_{\text{bnd}}$ で、 V_y, B_x は「絶対値が等しく符号反転で鏡面配置」、 ρ, p, V_x, B_y は「絶対値・符号が等しく鏡面配置」。サブルーチン bnd で設定する。

計算パラメータは以下の通り（表 3 参照）。

5 参考文献

Ugai, M., 1992, Physics of Fluids B, 4, 2953-2963.

パラメータ	値	コード中での変数名	設定サブルーチン名
境界の位置 x 方向 X_{bnd}	5	—	model
境界の位置 x 方向 Y_{bnd}	20	—	model
比熱比 γ	5/3	gm	model
初期プラズマベータの逆数 α_0	10	betai	model
磁気拡散定数の最大値 η_i	0.03	etai	model
磁気拡散の有効半径 r_η	0.8	retai	model

表 2: おもなパラメータ

パラメータ	値	コード中での変数名	設定サブルーチン名
グリッド数 x 方向	105	ix	main
グリッド数 y 方向	106	jx	main
マージン	4	margin	main
終了時刻	23	tend	main
出力時間間隔	1	dtout	main
CFL 数	0.4	safety	main
進行時刻下限値	10^{-10}	dtmin	main

表 3: おもな数値計算パラメータ。マージンとは、境界の値を格納するための配列の「そで」部分の幅のこと。進行時刻下限値とは、各計算ステップの Δt の値がこの値を下回ったときに計算を強制終了するための臨界値。